

友の会 通信

2008.7
No.86

ASSOCIATES NEWS
THE MUSEUM OF ORIENTAL CERAMICS, OSAKA

やきものの芸術学 1

芸術作品としてのやきもの

やきものは一万五千年以上も前から制作されていましたが、やきものを鑑賞の対象つまり芸術作品として、とらえだしたのは近代以降のことです。人間がなんらかの目的をもって、やきものを制作してきた長い歴史があり、やきものはその存在 자체だけに意味があるわけではなく、実用的な意味を伴っています。造形的には個人の意志よりも、むしろ時代精神の反映されたものです。制作すること自体に意味が見出されるようになったのは、近代的な芸術観によるもので、それは芸術作品を自覚的に制作したといえます。

芸術作品としてのやきものを考える場合に、具体的にどんなやきものが対象となるのかが、当然問題となってくるでしょう。自然界に初めから存在するものではなくて、人間が作り出したものには、必ず何らかの制作意図があるはずで、そこへ人間の精神性ないし時代の精神性を読み取ることが可能ということを前提にして、芸術作品を考えてみます。

芸術作品についての定義は一律ではなく、人によって、さまざまな意見があります。現代では、美術館で展示されているものとか、あるいは、芸術作品として流通しているもの、美術全集などの出版物に掲載されたものや、その類似したものなどが、芸術作品のように思われています。これをやきものについてみれば、①芸術家とみなされる人間の制作によるもの。例えば、野々村仁清、富本憲吉、パブロ・ピカソなど作家の制作した作品。陶磁器に作家が署名(あるいは押印)をする習慣は作品に対して何らかの自己主張をするような場合ですが、必ずしも近代の発想とは限りません。優れた職人陶工が自信をもつて、署名する場合もあります。たとえば紀元前五世紀ごろの古代ギリシャのアッティカ陶器には陶工や画工の署名があります。②歴史のフィルターによって鑑賞対象として高い評価の与えられてきたもの。いわゆる伝世品に多いタイプです。日本に輸入され、大切に保存されてきた陶磁器などに、国宝や重要文化財を頂点として、多数見ることができる人々によって選択されたもの。鑑賞陶器と呼ばれたジヤンルもこれに該当するでしょう。繩文土器や唐三彩や磁州窯、耀州窯などの出土品に対して、鑑賞の対象として二十世紀の初めごろから、選択がおこなわれ、その価値観が特殊なものではなく、ある程度普遍的な価値を認められた場合。④最高級の作品として、制作されたもの。中国では皇帝あるいは宮廷のための陶磁器などです。

※新館長のコラムを新たに連載します。

(館長 出川哲朗)

展示室から

受贈記念特別展 「中国工芸の精華 沖正一郎コレクション—鼻煙壺1000展」

粉彩 花鳥文 鼻煙壺 一対(表紙)

清時代末・19~20世紀
高: 8.0cm Acc.No.13890, 13896

粉彩は、ヨーロッパから伝わった無線七宝の技術をもとに、清時代の康熙・雍正年間に始まった上絵技法の一種です。白磁の表面に、酸化錫を含んだ顔料で絵付けをし、濃淡の表現や細い描写ができることが特徴です。ここでは、器表全面の白地を活かして、太湖石に薔薇と木蓮がのびのび描かれています。とくに薔薇、木蓮の花弁には濃淡の彩色が効果的に表されています。薔薇と木蓮は別名を長春花、玉蘭花といい、それぞれ長寿と富貴を表す文様です。太湖石もその珍しい形から寿石とされ、全体で吉祥を表した文様構成となっています。底部には無題の「乾隆年製」青花銘が入ります。(K.N.)



特集展「古染付の魅力」

青花「福」字騎馬人物図 鉢(上、下)

明時代・17世紀 景德鎮窯(古染付)
高: 8.3cm 口径: 14.0cm Acc.No.12800
米田正國氏寄贈

古染付とは、明時代末の大啓年間(1621-27)を中心に江西省景德鎮の民窯で焼成された青花磁器(染付)で日本に輸入されたものに対する我が国独自の呼称です。水指や向付などの茶道具や懐石用器として珍重され、日本からの注文によるものもあります。胎土や釉薬などは決して上質とはいいませんが、簡略で自由奔放な絵付け、「虫喰い」と呼ばれる釉薬の剥落、意表をつく独創的な造形など、いかにも民窯らしい特徴は、茶人を中心に日本でとても好まれました。古染付の文様は伊万里焼にも影響を与え、現在でも食器の文様としておなじみのものも数多く見られます。

本展では、これまでご寄贈いただいた作品の中から、同時期の天啓赤絵を含む古染付23点(予定)を選び、古染付の魅力を紹介いたします。青と白の涼やかな古染付は、蒸し暑い夏の一眼の清涼剤となってくれるはずです。(H.K.)

次回展示予定:

平成20年10月11日(土)~12月26日(金)

企画展「酒器に酔うー東アジアの酒文化」

編集後記

◆「古琴(七弦琴)のタペ」は、中国の楽器の演奏でしたので、初めて中国陶磁室(J室・元~明時代)を会場として行いました。限られた場所での開催でしたが、ご応募いただいた方72人全員においでいただきました。参加の方々は非常に熱心にお聴きになられ、休憩時間にも楽器の近くによってご覧になったり、演奏された方に質問されたり

ていました。先生方も休憩を取らずに、皆様からのご質問にお答えになられ、姚先生の熱演と皆様の熱気に溢れた良い会となりました。(S.S.)

ボランティアの窓

◆“ちょっと危ないかもしれない”と思ったのも束の間、次の瞬間、少しスローモーションっぽく見えたのは気のせい?手提げ袋は机から床に落ちていた。自作の茶碗は粉々に。なんともやるせない気持ちになったのも当然である。作った頃の事が走馬灯のように蘇る。大事なものとの別れは意外にもあっけない。少々、オーバーな様だが人生もこんな風なのか、と思

った。些細なでき事から、時を越えて代々伝えられてきた『伝世品』のもつ重みやありがたさを改めて感じさせられた。(C.O.)

大阪市立東洋陶磁美術館 友の会通信 通巻第86号

2008年7月1日発行 No.24-2(年4回)

編集・発行:大阪市立東洋陶磁美術館友の会事務局
〒530-0005 大阪市 北区中之島1-1-26
TEL.06-6223-0055
<http://www.moco.or.jp>
デザイン:清嶋滋+studioTWEN 印刷:岡村印刷工業株式会社

展示のおしらせ

7月19日(土)~9月28日(日)

◆受贈記念特別展

「中国工芸の精華 沖正一郎コレクション—鼻煙壺1000展」

◆特集展

「古染付の魅力」

◆平常展

安宅コレクション中国・韓国陶磁、
李秉昌コレクション韓国陶磁、日本陶磁

◆休館日:月曜(7/21, 9/15を除く)、7月22日(火)、

9月16日(火)、9月24日(水)



粉彩 花鳥文 鼻煙壺 一対

清時代末・19~20世紀
高: 8.0cm Acc.No.13890, 13896 (沖正一郎氏寄贈)

古琴(七弦琴)のタベー「天にさざげる器」展によせて

第65回講演会要旨

浙派古琴
姚公白バイ師



Fig.1



Fig.2

出川哲朗館長：実は、「古琴のタベー」は昨年7月14日に開催する予定でしたが、台風のため残念ながら中止となりました。今回、再び「姚公白の七弦琴をきく会」の岡田様ご夫妻のご尽力により、姚先生のご来日をお待ちして実現することができました。ここに深く感謝申し上げます。

古琴は周時代の詩を集めた『詩経』に出てきますから、3000年以上の歴史があるといつても過言ではないといえます。古代の古琴は曾侯乙墓や、馬王堆漢墓などから出土しています。また日本にも、正倉院や法隆寺に伝えられた古琴があり、それが琴柱のない古琴というタイプです。日本では奈良から平安時代にかけて盛んに行われ、源氏物語にも記載されています。

2003年には古琴の演奏方法がユネスコによりまして、いわゆる世界遺産にあたる「人類の口承及び無形遺産に関する傑作」に登録されました。その登録に当たっては姚先生のご尽力が大変大きかったそうです。

姚先生は、数学の先生をなさる傍ら、古琴の研究者であり演奏家であったご父君の姚丙炎先生の教えを受けられ、古琴の研究、国内外の演奏活動を続けておられます。また去年制定されたばかりの日本での人間国宝にあたる「国家级非物质文化遺産 古琴芸術代表性传承人」の最初の指定者として今年選ばれました。古琴の最高峰の方をお迎えしてのプログラムですので、大変賛沢な時間になることと思います。

今日、歌を歌ってくださるのは張為群先生です。今日のために、わざわざ帰国の日程を変更して駆けつけてくださいました。张先生は香港城市大学の教師をなさり、唐・宋時代の漢詩の研究者として、博士号をおとりになっています。それと同時に琴と歌も学ばれています。また通訳していただくのは、中国哲学がご専門の和歌山大学教授の滝野邦雄先生です。本当に貴重な時間を当館のためにわざわざお出でいただきて、誠にありがとうございます。

古琴は中国古代の文人や士大夫の階級の人々がたしなみとしたもので、古琴は重要な位置にありました。古琴を聞くということは、中国の奥深い伝統文化に触れる機会であり、このように中国陶磁の展示室の中で演奏していただくことは、まるで宮廷にいるような雰囲気です。実際に古琴は人をお招きして、ともに語りながら演奏するという形式のものだったようです。先生、よろしくお願いします。

姚公白先生：私は数学を研究しており、琴は家の伝統的な仕事です。数学の研究は0から9までですが、音楽の数字譜の表現は0から7までとなっており、非常に似ています。来日は今回で3回目になりますが、そのたび、皆様の温かいご支援をいただいて、大変うれしく思っています。特に岡田夫妻をはじめ、皆様に本当に親切にして頂きありがとうございました。

古琴は大変古い楽器ですので、皆様に古陶磁を見いただきながら演奏できるということは、私にとってとてもうれしいことです。今日は、古い琴ではなく新しいものを持ってきておりますが、本当は古い琴の方が大変良い音ができます。古琴は古代の文化人が非常に大切にしたものであり、特に李白・蘇東坡・白居易などのたくさんの詩人達は古琴をこよなく愛しました。私とこれらの詩人は比較することはできませんが、これから、いくつかの古琴の曲を演奏いたします。

プログラム：

1、陽関三疊（ヤンカンサンディエ） 歌：張為群女士

陽関は古来、西域に入る関所の名前で、唐の王維の詩「送元二使安西」に歌われたことから別れの場所として知られています。「陽関三疊」とは、その結句「西出陽關無故人」を繰り返し歌うことをします。

2、楚歌（ツウカ）

漢の劉邦と楚の項羽の戦いの故事に基づきます。大敗した項羽を包囲した軍勢に、劉邦が項羽の故郷楚の歌を歌わせ、既に楚が漢に負けたと項羽に落胆させ、その破滅を誘うという「四面楚歌」をもとにしたものです。

3、鶴鳴九皋（ホーミンチョウカオ）

『詩経』の中の「鶴鳴九皋、声聞天」という語句に題材を取った曲です。大空に羽ばたきながら鳴く鶴の姿により、古琴の高潔さ、深遠さ、自由活発を表した曲です。

4、浜辺の歌 作詞、林 古溪 作曲、成田為三

休 憇

5、蒹葭吟（チエンチャイイン） 歌：張為群女士

平成17年に「木村蒹葭堂顕彰会」代表の水田博士の依頼を受け、「詩経」の秦風中の「蒹葭」の詩を姚先生が作曲したものです。蒹葭堂の人柄を偲び、明るく軽快な曲になさいました。

6、古詩十九首之三（クーシーシーチョウシュチサン） 歌：張為群女士

「古詩十九首」は南朝梁の『文選』に収録されて以来、古詩の範とされて後代に大きな影響を与えました。その中から新たに曲をつけたものです。作曲は、歌って頂きました張為群女士の父君張傳芳師、配指法は姚先生によります。「青青陵上柏 磬磊礪中石 人生大地間 忽如遠行客…」と人生は旅のようにはかないものだが、生きていることを大いに楽しもうと歌っています。

7、憶故人（イーカウレン）

「中山思故人」、「空山憶故人」という別名をもっています。繊細で韻律醇厚、別離の情、連綿とした曲調の起伏が続きます。

8、良宵引（ランショウイン）

美しい月夜に涼風を受けて優雅な感興に誘わせる曲です。短い曲ながら洗練された清新なもので。

9、烏夜啼（ウイエティー）

この曲は南北朝時代に記録されている民謡です。『神奇秘譜』の注によると次のような内容になっています。無実の罪で捕えら

れた夫を心配して眠れなかった妻は、ある夜鳥の啼く音を聞いて夫が戻ってくることを確信した。翌日釈放されて帰宅した夫は、それを聞いてこの曲を作ったといいます。

滝野先生：補足説明させていただきます。この曲は演奏するのに非常に難しい曲といわれており、また現在この曲を弾かれる方の中では、姚先生が最高の演奏者といわれています。

出川館長：有難うございました。1977年にアメリカの探査衛星ボイジャーが太陽系外に旅立つ際のメッセージとして、古琴で「流水」という曲を流したそうです。芸術形式としては、古代ギリシャでは音楽と詩が最高位にランクされています。中国でもおそらく同様だと思います。孔子の時代に編まれた『詩篇』、そして古琴の演奏は、やはり音楽と詩の融合体として芸術の最高であり、私達を感動させるような力をもっています。音楽は非常に調和を重んじ、そしてまさにその背後には数学があるわけです。世界最高の古琴の名手に聴かせて頂いて、本当に幸せな気分でございます。

大変いい機会ですので、もし質問がありましたら、どうぞ。

姚先生：私は中国の古琴について、いくらでもご紹介させて頂きたいと思っています。わかりやすく説明させて頂けると思いますので、どうぞ、ご質問下さい。

質問：楽譜というものはありますか？

姚先生：中国の古琴の芸術の遺産が3つあって、そのうちの一つが古琴であって、もう一つが古琴の曲が書いてある楽譜です。この二つが古琴の芸術の大きな文化遺産となっています。

現存する一番古い琴は唐時代のものです。日本にはかなり唐時代の古琴が残っており、正倉院にも伝わっております。私は3回も日本にきて、良い琴をたくさん見せて頂きました。奈良時代には日本の僧侶が中国から琴を持ち帰っていますし、また江戸時代には中国から僧侶が来日して、琴をたくさん紹介しましたので、大変流行りました。

明時代に大量の楽譜が作られました。その一つは琴の理論についてのものであり、もう一つは曲が書かれた、いわゆる楽譜が大量に作られました。琴には3000年の歴史がありますが、楽譜については大体わかる限りでは、1000年くらいの歴史があります。今見られる一番古い楽譜は、中国ではなく日本にあり、文字で書かれた楽譜です。文字の楽譜は比較的長い語句で一つの音を表現します。明清時代以降には曲は3000くらいあったそうです。

琴の形は上部が丸くなり、底の部分が平らになっており、中国の「天圓地方」の世界観を現しています。5本の弦が君、臣、民、事、物からています。もともとは5本の弦でしたが、周の文王と武王がそれぞれ1本づつ弦を増やしたといわれています。また古琴の13徽は旧暦でいう12ヶ月と閏月を表します。一般的の琴の長さは3尺6寸5分で、1年の日数365日を象徴しています。琴は文化人と非常にかかわりがありますので、今申しましたような宇宙全体を現しているのです。また琴は人間の体も現しています。体の部分のそれぞれの部位を表しているのだそうです(Fig.3)。それが琴の美しいフォルムを作り上げているのです。

質問：弦とボディー本体の材質はなんですか？また材質は特定の地域のものでなければいけないのでですか？

姚先生：上の部分は桐の木で、底は梓の木で作られます。琵琶も外側は柔らかいもので作り、内側は硬い部分を使っています。弦の部分は絹で作り、他の部分は桐で作るというのが、中国の昔からの琴を作るときの言い伝えです。元時代の詩人耶律楚材の中に「回首二十秋、絲桐高閣束」という詩句があります。その中の「絲」と「桐」は古琴の材料であり、古琴の別名ともなっています。現在では良い木が全然ないので、どこの地方のものという指定はできません。やはり宋時代に作られた琴が非常に良いものです。宋時代のものでしたら、どの地方の材質でも良いのです。みなさん、日本に残っている古い良い琴を大事にしてください。

質問：例えば、ギターと押える位置が決まっているので、素人でも一週間や一ヶ月練習すれば、簡単に弾けるようになると思うのです。ただ、琴の場合、位置が1ミリ、もしくは0.1ミリずれただけでも、多分違ってくると思いますので、素人が弾くのはまず無理ではないかなと思います。大体一人前に弾くのに何年くらいかかるものなのでしょうか、また中国では今演奏者は何人くらいいらっしゃるのでしょうか。

姚先生：今おっしゃったような上手いとか上手くないということではなくて、琴は読書人の楽器ですので、気持ちが良くなれば、それで十分だと父から教え受けました。もし、弾いて気持ちがよければ、どんな音が出てもそれでよいだと理解すればよいのではないでしょうか。今、國家が認定した古琴芸術を伝承する代表的な人は10人います。中国には13億の人がいるのに、琴に興味を持つ人は少ないのですが、日本にお好きな方がたくさんいらっしゃるのではないかと思います。

質問：古琴は、自分で演奏しながら歌うということはありますか？

姚先生：非常に専門的な問題です。もともと琴には『詩篇』の300首があり、孔子の学校ではそれを勉強しました。歌いながら琴を弾くというのが孔子の学校での形だったそうです。もともとは五弦琴ですか、十弦琴とか一弦琴など、色々な形式のものがあつたらしいのですが、そのときには歌いながら琴を弾いて、自分の精神を鍛錬しました。むしろ、鍛錬するために弾いたのです。それがだんだん後の時代になって七弦琴に統一されるようになって、あまり歌われなくなりました。今は、色々な演奏形式があります。昔は修養のために歌いながら弾いていたのですが、段々分業化みたいになって、今日聴いていただいたように、张先生と一緒に演奏したような形になっています。

先日、张先生と一緒に日本で一番古い琴を見に正倉院まで行つたのですが、残念ながら正倉院が閉まっていて、見ることは出来ず、大変残念な思いをしました。

出川：今日は長時間有難うございました。お気をつけてお帰り下さい。

平成20年5月31日(土)大阪市立東洋陶磁美術館 中国陶磁室

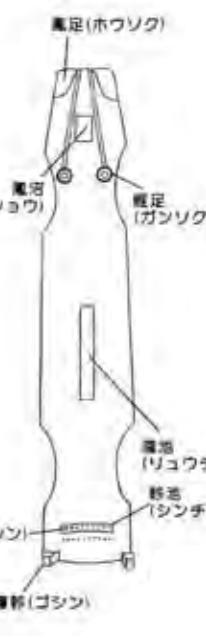
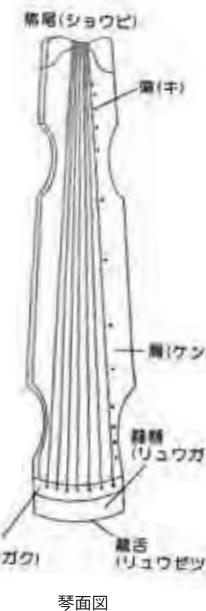


Fig.3 琴の構造図

プロフィール



姚公白師 浙派古琴

1948年、中国浙江省杭州市生まれ。吳振平、張子謙の二大家に指導を受け、大学卒業後は、琴学の研究とその発表を行うとともに、国内外での演奏活動を積極的に行い、「皇響」「姚門琴韻」などの複数のCDも発表されています。2008年には中国文化部より、琴学の研究と演奏活動の功績が認められ「国家级非物质文化遺産 古琴芸術代表性传承人」として認められました。